

箕輪町「道の駅」整備基本計画

令和8年4月

箕輪町

民の皆さんとも一緒に検討を行うため、平成 29 年度に「にこりこー帯にぎわい会議」を設置しました。

それぞれの会議体における議論の結果、道の駅化による道路利用者の利便性向上や、それに伴う誘客効果は魅力的であるものの、「まずはリニューアル後の各施設の機能を充実させ、一帯を魅力的な場所になって町民及び観光客の利用促進が達成された後に道の駅化を進める」という結論に至りました。

〇みのわテラスの道の駅化

リニューアル以降、各施設の指定管理者による魅力向上のための主体的な取組や、外部アドバイザーと連携した施設横断的な空間デザイン作り、各施設と町が連携した月例イベントの継続開催などにより、一帯の来場者数及び売上は着実に増加しており、賑わいが生まれ、地域にとって魅力的な場所となってきました。

こうしたことから、リニューアル時の懸案であった「各施設の機能充実」「町民及び観光客の利用促進」といった事項がクリアされたと考え、町民の皆さんのさらなる利用促進や、長野県南部～中部の観光ハブ拠点を目指して、道路利用者の利便性向上のための整備に加えて、地域と一体となったさらなる地域活性化や、住みたい・住み続けたいまちづくりを目指した戦略的な施設整備を行います。



定期開催している「みのわテラスマーケット」

1 道の駅の概要

(1) 道の駅とは

- ・道の駅は主に市町村が設置し、国土交通省が登録する道路休憩施設です。
- ・平成5年の制度創設以来、全国で1,231駅（R7.12月現在）に拡大しています。
- ・長野県内には54駅あり、全国で3番目に多い都道府県になっています。

【県内道の駅の位置図】



出典：信州道の駅交流会

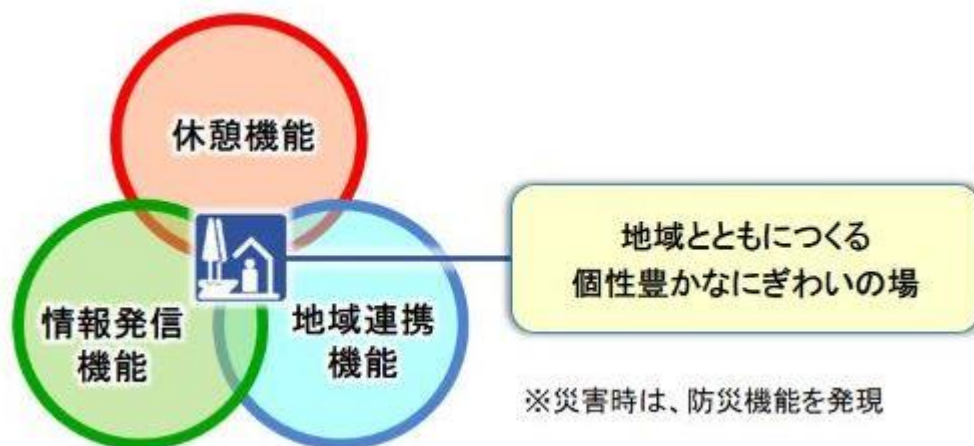
(2) 「道の駅」の目的と機能

①目的

- ・道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供
- ・地域の振興に寄与

②機能

- ・休憩機能：24時間、無料で利用できる駐車場、トイレ
- ・情報発信機能：道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報などの提供
- ・地域連携機能：文化教養施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設



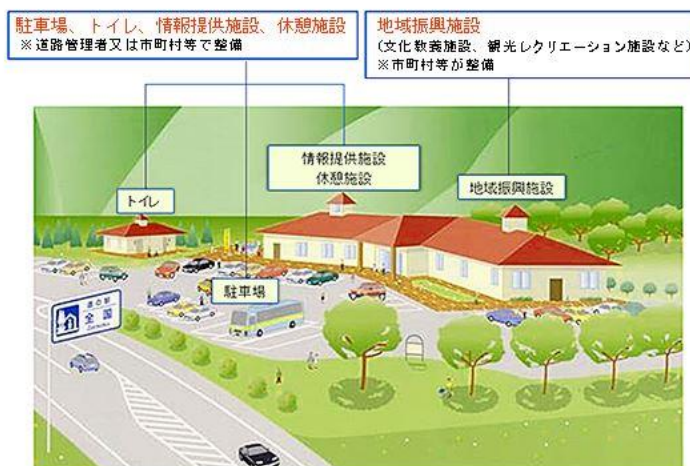
「道の駅」の目的と機能（国土交通省）

(3) 「道の駅」の施設構成

道の駅は前述の基本3機能を備えた「情報発信・休憩施設」と「地域振興施設」が一体となった道路施設です。（下図①）

(4) 「道の駅」の整備手法

整備の方法は、道路管理者と市町村長で整備する「一体型」と市町村ですべて整備を行う「単独型」の2種類があり、みのわテラスは「単独型」で整備予定です。（下図②）



①「道の駅」の施設構成（国土交通省）



②「道の駅」の整備手法（国土交通省）

(5) 「道の駅」の設置者、登録等

- ・市町村またはそれに代わりえる公的な団体が設置
- ・市町村長からの登録申請により国土交通省が登録

(6) 現在の「道の駅」に求められるもの

「道の駅」は平成5年の制度創設から30年が経過し、全国で1,231駅に展開され、年間で2億人以上の方々に利用されています。創設当初の「通過する道路利用者のサービス提供の場」(第1ステージ)という役割は、利用者の増加や期待の高まりから「道の駅自体が目的地」(第2ステージ)となり、地域の創意工夫により、道の駅自体が観光の目的地や地域の拠点に発展してきました。

さらに近年は、各「道の駅」における自由な発想により、観光や防災などさらなる地方創生に向けた取組や、「道の駅」同士や民間企業等との連携による新たな魅力を持つ地域づくりに貢献するため「地方創生・観光を加速する拠点」(第3ステージ)としての役割が求められています。

みのわテラスも、町全体と道の駅が一体となって発展できるようにコンセプトを設定し、共通の意思を持って取組を進めます。



「道の駅」第3ステージ概念図(国土交通省)

2 当町が抱える課題

(1) 現状と上位計画における位置づけ

当町の人口は、平成20年の26,499人をピークに令和8年2月現在で24,164人まで減少しています。また、当町は団塊の世代の人口が多く、高齢化率も30.0%（令和2年国勢調査結果）に達しており、令和8年には団塊の世代が75歳以上となることで支援を必要とする高齢者が急激に増えることが予測されます。

こうした状況を受け、人口減少社会となっても誰もが住みたい町、住み続けたい町であり続けるため、「みんなで創る、未来につながる、暮らしやすい箕輪町」を町の将来像に定め、第5次振興計画を策定し、行政と町民が一体となって人口減少時代に挑戦する“箕輪チャレンジ”に取り組んでおり、具体的な目標として2つのチャレンジ目標「①人口減少時代に即した暮らしへの転換」「②将来の暮らしやすさを守る人口規模の維持」を設定しています。

また、2025年には「まち・ひと・しごと総合戦略」を改訂し、「Ⅰ 人口減少時代に対応した魅力あるまちづくり（■2040年に22,100人程度の人口を確保、■出生率の上昇等による出生数の増加、■町の魅力発信による転入者・関係人口の増加、■多様な人材の活躍）」と「Ⅱ 産業の発展（■2040年まで工業製造品出荷額の郡内3位以内維持、■工業を中心に商業、農林業等多様な産業の振興）」を掲げ、次の4つの基本目標と2つの横断的な目標により、取り組んでいます。

基本目標① <未来を創る>

○工業製造品出荷額郡内上位の工業を中心に商業、農林業等の多様な産業振興により働く場所を確保するとともに、稼ぐ地域をつくる

基本目標② <未来に集う>

○町に愛着を持つ人材の育成や関係人口創出施策の推進により、UIJターナー等移住定住者の増加と新しいひとの流れの増加を目指す

基本目標③ <未来を育む>

○若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえるため、子育て環境の整備や施策の充実を図る

基本目標④ <未来に生きる>

○徹底した安全・安心など、人口が減少しても未来につながる魅力ある暮らしやすいまちづくりを進める。

横断目標① <多様な人材の活躍を推進する>

横断目標② <新しい時代の流れを力にする>

このうち農業の分野では、「農地が農地として使われ続ける環境を作る」ための一連の施策を「箕輪町農業応援団計画」として位置づけ、それらが推進される中で、その中核的な存在であるみのわテラスには、農を通じた地域の活性化と持続可能な農業の未来を切り拓く重要な役割が期待されます。

(2) 目標達成に向けた課題

上記目標の達成に向けて、当町では下記のような課題を抱えています。

①関係人口の確保・観光消費額の上昇

町の観光資源として、広大な敷地に美しいピンク色の花が咲き誇る「赤そばの里」や、1万本のもみじの紅葉が美しい「もみじ湖」があり、多くの観光客（8～9万人）が訪れていますが、町内に観光情報等を提供する拠点や大型の休憩施設が無いため、通過点になってしまっており、観光客から関係人口の展開まで至っていません。また、町内での観光消費額が少なくなっています。

このため、観光シーズンを中心に、当町を訪れる人の流れを交流人口・関係人口創出の切り口として取り込み、滞在時間を延長させ、ながた温泉などの当町の地域資源に触れる機会を作り、地域内へ好循環を生み出す拠点の整備が必要です。

②農の担い手の確保・遊休農地対策

農業経営者の高齢化に伴い、担い手の確保が継続課題であり、担い手の確保のためには地域で生産された農畜産物を安定的に出荷できる「大きな出口」が必要です。一方で、非農家の中には家庭菜園や町民菜園等の利用による「農ある暮らし」を求める層が一定数あり、非農家による農地利用を推進する方策が求められています。

また、みのわテラス周辺には広大な農地が広がっており、一部が観光農園に活用されているものの、観光客を呼び込み滞在時間を延長させたり、関係人口を増加させるためには、周辺農地とのさらなる連携が必要です。

③子育て環境の整備・少子化・人口減少対策

町内に未就園児向けの子育て支援センターは整備されており、保育士が常駐して子育てに関する相談に乗るなど、平日休日を問わず多くの親子が利用していますが、その上の年代（保育園児～小学生）が遊べる屋内施設がないため、子育て世代からは整備を求める声が多くなっています。こうしたニーズをとらえた施設整備を行うことにより、住みたいまち、子育てしたいまちといったイメージを醸成し、発信することが必要です。

④冬期間の来訪者確保

当町の冬は寒さが厳しく、生産できる農産物に限りがあり、また野外での活動も難しいため、冬期間の観光客が非常に少ない傾向にあり、同様にみのわテラスの来客数、売上は、秋のピーク時と比較すると10分の1程度まで落ち込んでいます。

年間を通じて地域外から人を呼び込み賑わいを継続するためには、冬期間でも提供できるサービスを生み出すことが必要です。

⑤災害時における拠点施設の確保

当町は西部地域に広い駐車場を併設する公共施設が少なく、災害時に観光客等の道路利用者が一時避難したり、地域住民が車中避難するためのスペースや避難生活を送るための設備が十分ではありません。また、発災後、外部からの各種支援活動等の拠点となるためのスペースの確保も必要です。

3 道の駅に求められるもの

(1) 箕輪町総合計画における位置づけ

前述のとおり、当町では箕輪町第5次振興計画の町の将来像「みんなで創る、未来につながる、暮らしやすい箕輪町—人口減少時代への挑戦“箕輪チャレンジ”—」の実現に向け、推進する政策の2つのチャレンジ目標を設定しています。

チャレンジ目標①	人口減少時代に即した暮らしへの転換
チャレンジ目標②	将来の暮らしやすさを守る人口規模の維持

チャレンジ目標の達成に向けて、基本計画の施策のほか、重点的に取り組むプロジェクトを設定しています。

重点プロジェクトは、戦略的な予算配分により、行政事業として優先的に実施されるとともに、行政機関内で横断的に取り組みます。また、町民の役割も定め、他の施策以上に、行政と町民が一体となって進めることとしています。

チャレンジ目標	重点プロジェクト	みのわテラスとの関連
①	① 町民参画促進チャレンジ	
	② 集落パワーアップチャレンジ	
	③ 健康寿命延伸チャレンジ	
	④ 新時代の行政運営チャレンジ	
	⑤ 地域内資金循環チャレンジ	◎
	⑥ 教育力向上チャレンジ	
	⑦ 安全・安心チャレンジ	○
	⑧ 地域の絆再生チャレンジ	
②	⑨ ハッピーサポートチャレンジ	
	⑩ 子育て安心チャレンジ	○
	⑪ 移住・定住促進チャレンジ	○
	⑫ 公共交通活性化チャレンジ	
	⑬ 緑のエネルギー活用チャレンジ	○
	⑭ 箕輪の農業応援チャレンジ	◎
	⑮ 商工業活性化チャレンジ	○
	⑯ 箕輪町知名度向上チャレンジ	○
	⑰ ふるさと愛着応援チャレンジ	○
	⑱ 箕輪町DXチャレンジ	
	⑲ ジェンダー平等チャレンジ	
	⑳ 箕輪町ゼロカーボンチャレンジ	○

これらのチャレンジを推進するうえで、豊かな農畜産物、雄大なアルプスや田園風景といった美しい景観、赤そばやもみじ湖を活かした観光業など、この地域の多様な資源を活かした魅力的で持続可能な地域づくりを進めていく必要があります。加えて、農の体験等を通じて「農ある暮らし」の魅力を発信し、交流人口・関係人口の増加を目指しながら地域振興を図ります。

この手段の一つとして、本計画により道の駅としての機能等を整備し、みのわテラスが地域の農業振興、魅力発信、子育て支援、シビックプライドの醸成など様々な要素を踏まえた新たな人の流れの創出に加えて、交流人口・関係人口を増加させていく先導的な役割を担う、地方創生の拠点となることを目指します。

また防災の観点では、災害時に観光客等の道路利用者の一時避難場所が必要であることや、外部からの各種支援活動や、救援物資の配送、避難者への食事提供の拠点となる場所が必要となることから、広い敷地と複合施設を有するみのわテラスには、こうした役割も求められます。

(2) 道の駅化整備計画検討委員会における導入機能に係る意見等

みのわテラスは、農産物直売所から始まった施設であり、常に「農」を中心にした整備を行ってきました。

一方で、近年の道の駅には「観光」「防災」「地方創生」といった多様な役割が求められることから、地域の様々な分野の団体の皆さんから道の駅に求める機能等をお聞きし、一緒に考えるための「みのわテラス道の駅化整備計画検討委員会」を組織しました。

検討委員会における提案事項等は下記のとおりであり、これらを本計画に反映させ、今後の整備やその先の開発を進めます。

- ・夜間の駐車場、通学時間帯の周辺道路の防犯対策の強化
- ・施設内の安全管理及び雨水排水対策の強化
- ・ペット避難所への指定
- ・オートキャンプ場の整備
- ・「農」に対して関心を持ったり知識を深められる情報発信と体験の充実化
- ・特産品の開発、お土産品の充実化
- ・冬季間の集客対策
- ・地元の学校と連携した事業の検討
- ・第3ステージの道の駅にふさわしい既存施設の充実化
- ・農産物加工所及びテラスすたんの機能強化（製造・販売）
- ・体験スペースのアレルギー対策
- ・周辺の農地（果樹、アスパラ等）との連携強化
- ・町民菜園、交流菜園と連携した事業の検討
- ・親子連れ、ペット連れが長く滞在できる機能の整備

4 みのわテラスの現状と課題

(1) みのわテラスの概要

- ①リニューアル年月日 令和3年4月3日（5年目）
- ②所在地 長野県上伊那郡箕輪町大字中箕輪 3730-186
- ③施設概要
- ・全体面積：11,954 m²
 - ・駐車場：194台（うち思いやり駐車場2台、大型車2台）
 - ・トイレ 男：小5基・個室3基 女：個室7基 ユニバーサルトイレ：2基
 - ・施設：
 - やまびこテラス…地産地消レストラン
 - ファームテラス…農産物直売所
 - 農産物加工所…農産物加工、菓子・惣菜等の製造販売
 - サイクルテラス…バイシクルショップ
 - 芝生広場…大型遊具等を配置した屋外の遊び場



【みのわテラス配置図】

④周辺施設

みのわテラスは伊那西部広域農道と町道52号線の交差点北側に立地し、周辺は観光農園を含む果樹等の農地が広がっています。また、中央自動車道伊北IC及びながた温泉から約5分と、観光振興面に優れた立地となっています。

(2) みのわテラスの現状

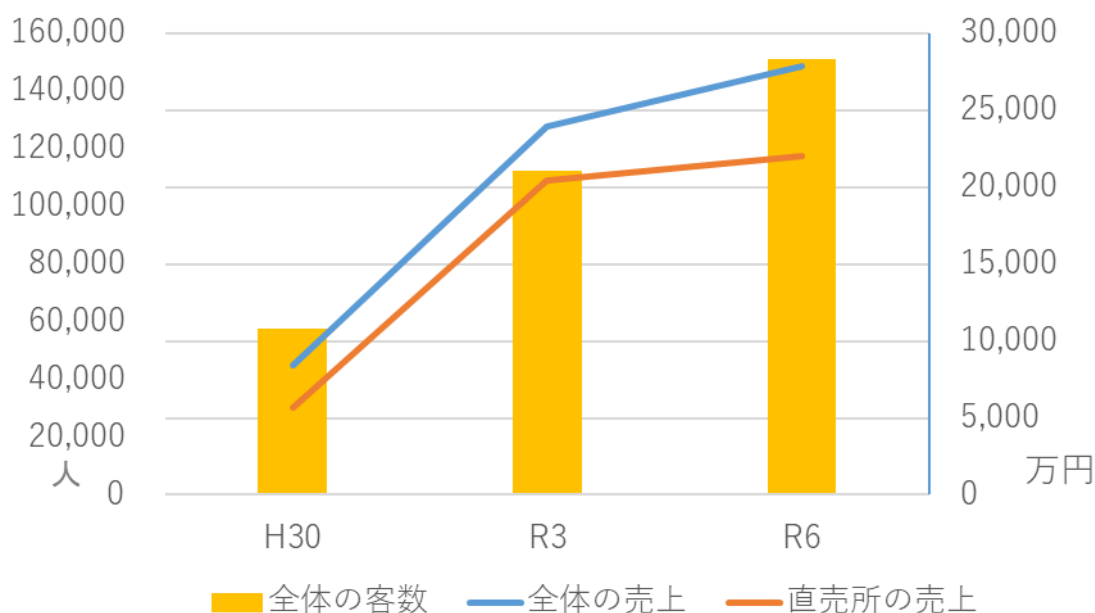
①管理運営

各施設の管理運営を、指定管理により委託しています。(R8.1 現在)

- ・やまびこテラス…(有)山彦化成工業
- ・ファームテラス…J A上伊那
- ・農産物加工所…みのわ加工(株)
- ・サイクルテラス…BM-F U J I

②利用状況

令和3年のリニューアル以降、レジ通過者数(利用者数)と全施設の合計売上は増加傾向にあり、令和6年度はレジ通過者数15万1,076人、合計売上2億7,892万円となっています。



(3) 「道の駅」登録に必要な施設整備

「道の駅」登録に必要な要件のうち、現状のみのわテラスには下記の機能が不足しており、既存の施設を活かしながら整備を行います。

- 案内・サービス施設(周辺の交通情報、観光情報等の案内)
- ベビーコーナー(授乳室、おむつ交換台等)
- 24時間利用可能なトイレ

(4) みのわテラスの課題と取組経過

○道の駅化の検討

旧直売所「愛来里」をリニューアルして平成14年に開店した「にこりこ」は、併設するレストランの料理や農産物加工所の加工品等に一定の人気があった一方で、一帯の賑わいや町の魅力発信機能などにおいて課題を抱えていたため、平成28年に庁内で「道の駅等整

備検討プロジェクトチーム」を立ち上げて道の駅化も見据えた今後の在り方の検討を行いました。

また、有識者や一般住民の皆さんとも一緒に一帯の未来を考えるため、平成 29 年に「にこりこ一帯にぎわい会議」を開設し、道の駅化も含めたリニューアルの方針等を検討しました。

それぞれの会議による提言は、下記のとおりです。

○「道の駅等整備検討プロジェクトチーム」による提言（H29.3）から抜粋

道の駅として整備することについて、看板を掲げることによるランドマーク的な集客力や、それに伴う一帯の活性化といった効果が考えられるが、その効果を高め、町内外からの評価を確かなものにしていくには、一帯の中身の充実が第一であり、特に地元で利用され、愛される施設になった先に道の駅として整備する道筋が見えてくるのではないかと。現状としては慎重な検討が必要。

○「にこりこ一帯にぎわい会議」による提言（H29.11）から抜粋

道の駅の名前を使って一帯をブランド化できるという点で、町の PR の有効な手段であると考えられるものの、リニューアルに向けて各施設の運営主体や経営の成否も未知数であるなか、道の駅化ありきの整備を行うことは相当なリスクを伴う。中身の改善を担保しつつ、段階的な整備により判断されることを提案する。

こうした提言を受け、令和 3 年のリニューアルに合わせた道の駅化は目指さないこととしました。

○利用者の意見聴取によるニーズ把握

リニューアル後、来場者数や売上額が伸び続けてきたことから、リニューアル前の懸案であった「中身の充実」「運営主体の経営の安定」といった事項は解決されてきています。

そこで、道の駅化も含めたさらなる賑わいの創設に向けた参考にするため、令和 6 年に「みのわテラス訪問者向けアンケート」を実施して、既存の施設に対する利用者の要望等をお聞きしました。

「みのわテラス訪問者向けアンケート」（R6.3）から抜粋した施設への要望

【一帯のデザイン、レイアウト等について】

- ・キャッチーなものや目印がない
- ・身体を動かしたり食事したり、滞在時間が少しでも長くなるようなイベント、環境づくり
- ・ベンチや休憩所を増やしてほしい
- ・みのわテラスに行けば、アクティビティも楽しめて、お昼ご飯も食べられて、夕飯の

- 食材を買って帰られる…みたいな1日を過ごせる場所になればいいと思う
- ・お店（カフェなど）を増やしてほしい、軽食できるところがほしい

【遊具など子ども向け施設について】

- ・もう少し遊具が増えると家族連れが多くなると思う
- ・雨や雪が降った後は遊具周辺が汚れてしまう
- ・少し大きい子向けの何か（あそび場、勉強の場）があるといい
- ・公園以外の子どもの居場所がもっと増えるといい
- ・授乳室や調乳できる場所、子どもトイレがあるといい

上記のご意見等も踏まえて、道の駅化に合わせた施設整備を行います。

5 道の駅の基本理念及び整備内容

(1) 基本理念、コンセプト

当町において「農地が農地として使われ続ける環境を作る」ための一連の施策を「箕輪町農業応援団計画」として位置づけ、それらが推進される中で、その中核的な存在であるみのわテラスには、農を通じた地域の活性化と持続可能な農業の未来を切り拓く重要な役割が期待されます。農業がもたらす恩恵と、それが織りなす美しい里山風景を未来へつなぐ拠点として、地域の皆さんが誇りを持てる場所となることを目指します。

具体的には、

- ①農産物の消費だけでなく、自ら農を手がけ、農の豊かさやおいしさを自分ごと化するきっかけを作る「農を手がける機会」
- ②地産地消を超え、域外にも農の魅力や楽しさを広め、農に触れるきっかけを作る「農の魅力や楽しさを広める機会」
- ③農を軸に活躍している方々の新しい経済基盤を作ることや、子どもたちが気軽に農の魅力に触れるきっかけを作る「農を次世代へつなぐ機会」

といった、利用者に「消費者」としての関わりを超えた、さらに深く濃い3つの機会を提供します。

また、地方創生の観点から見れば、農の範疇を超えて地域にあるものを資源として磨き上げ、箕輪町で暮らす価値として住民に感じていただくとともに、それらを対外的に打ち出していくことで、さまざまな形で町に関わる人を増やしていく、持続可能な関係人口づくりが必要です。当町は県内観光ルートのおぼ中央に位置しており、伊那谷においては北の玄関口にあるため、観光拠点として情報提供を行うことで来訪者やその先にある関係人口の増加に寄与します。

さらに、防災の観点では、駐車場が長野県伊那建設事務所の「異常豪雪時対応計画」にて通行規制時の大型車待機場所に指定されているほか、当町においても緊急避難場所として指定していることから、災害時においてもその役割を果たせるよう、防災対策も念頭に置いた整備を行います。

具体的には、広い敷地や駐車場を活かした緊急避難場所や車中避難場所としての役割の充実化が考えられるほか、自衛隊や国土交通省緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）、災害ボランティア等の外部支援の拠点としての役割や、複合施設としての強みを活かして、救援物資等の配送拠点や、町内の避難所における食事を製造するセントラルキッチンといった多様な用途での活用を検討します。

上記のような、みのわテラスに期待される様々な役割を踏まえ、基本理念とコンセプトを次のように設定し、具体的な整備を進めます。

○基本理念

「PLAY！ FARMING 農を遊び楽しむ暮らしの拠点」

○コンセプト

- ・地域の「農」に触れる拠点
(農を手がける機会、農の魅力や楽しさを広める機会、農を次世代へつなぐ機会)
- ・多様な世代が訪れたいくなるランドマーク
- ・伊那谷北部の玄関口となる道の駅
- ・防災拠点としての機能充実、強化

(2) 導入する機能と整備概要

①施設機能ごとの整備概要

基本理念及びコンセプトを踏まえながら、道の駅が持つべき3機能(情報発信機能、休憩機能、地域連携機能)を整備します。

機能	施設	備考	既存	改修	新設
情報発信機能	道路交通情報	デジタルサイネージ等			○
	観光情報	〃			○
休憩機能	駐車場	南側拡張		○	○
	トイレ(24時間)			○	
	子育て応援施設	ベビーコーナー等			○
	屋内休憩スペース				○
地域連携機能	農産物直売所		○		
	地産地消レストラン		○		
	遊び場機能	緑地広場の拡張 屋内遊戯施設		○	○
	体験スペース				○

②導入する機能と具体的な整備内容

【情報発信機能】

- ・町内及び周辺地域の観光情報のPRによる周遊促進
- ・道路情報等の提供による道路利用者の利便性向上

導入機能	現状・課題	整備内容・対応
観光案内(拡充)	<p>【現状】</p> ファームテラスのデジタルサイネージ及び各店舗でのポスターの掲示等のみ	<ul style="list-style-type: none"> ・情報案内スペースの新設 ・デジタルサイネージを使った町内及び周辺地域の観光PR強化(動画放映等) ・屋内休憩場所にポスター掲示とパンフレット・チラシ等を設置 ・ながた温泉、ながた自然公園のPR強化による周遊促進 ・農業を含む、地域の産業PRの強化
	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光情報のPRが弱い ・周遊促進対策 ・ながた温泉エリアとの連携不足 	

<p>通行止め等の道路情報の提供 (新規)</p>	<p>【課題】 道路利用者に対し、通行止めや工事といった最新の道路交通情報が提供できていない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・道路情報を提供するデジタルサイネージを設置し、情報案内スペースに設置。24時間情報提供する。 ・災害時における使用も想定。
-------------------------------	--	---

【休憩機能】

- ・南側駐車場の拡張と大型車用区画の整備
- ・トイレの改修と24時間化
- ・ベビーコーナーの整備による子育て応援機能の強化
- ・屋内休憩スペースの整備

導入機能	現状・課題	整備内容・対応
<p>駐車場 (拡張)</p>	<p>【現状】 ・普通車 184台 (優先駐車場 2台) ・大型車 2台 ・EV急速充電器 1基(2口) 【課題】 ・大型バス等、大型車用の区画が少ない ・駐車場の入口が広域農道側(東側)にしかないため、農道が混雑しやすい ・イベント時など、一時的な駐車場不足がある</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・南側駐車場の拡張(約2,100㎡)普通車約75台分 ・大型車区画の整備と動線の確保 ・町道52号線(南側)からの進入路の確保 ・災害時の利用も想定したレイアウトの検討 ・町道52号線の安全に配慮した整備 ・雨水排水対策
<p>トイレ (改修、24時間化)</p>	<p>【現状】 (ファームテラス外トイレ) 男：小3基、個室2基、ベビーチェア 女：個室5基、ベビーチェア 多機能：1基、車いす、オストメイト対応、おむつ交換台 (サイクルテラス外トイレ) 男：小1基、個室1基 女：個室2基 【課題】 ・夜間に使えるトイレがない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サイクルテラスのトイレを24時間開放し、屋内休憩スペースから利用できるトイレに改修 ・多機能トイレの新規整備 ・災害時の利用を想定し、レジリエンストイレの導入を検討
<p>ベビーコーナー (新規)</p>	<p>【現状・課題】 ・ファームテラスの多機能トイレにおむつ交換台があるものの、夜間は使えない ・授乳室がない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授乳やおむつ交換ができるよう、屋内休憩スペースにベビーコーナーを整備
<p>屋内休憩スペース (新規)</p>	<p>【現状・課題】 ・真夏、真冬、雨の日などにゆっくり休憩したり飲食したりする場所がない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・屋内休憩スペースの整備 ・情報案内スペースと一体に整備することで、道路利用者が休憩しながら道路交通情報、観光情報に触れられるようにする ・地域の農に関して興味を持ったり理解が深まるような情報発信等の仕掛けの検討

【地域連携機能】

- ・みのわテラスが目的地となるような施設の充実強化
- ・地元農産物の販売、旬の農産物を使った飲食物の提供、農をテーマにした体験型コンテンツなど、地域にも観光客にも魅力的な複合施設

導入機能	現状・課題	整備内容・対応
農産物加工所 (改修)	【現状・課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・テラスすたんの売上が、全体売上の1割を占めている ・販売機能であるコンテナ部分と調理機能である加工所の室内が離れており、連携に難がある ・人気のロールケーキを冷凍販売できる場所がなく、農産物直売所内で販売している ・加工所内に有効活用できていないスペースがある 	<ul style="list-style-type: none"> ・加工所内に販売機能を収納し、冷凍在庫を置いて対面販売できるよう室内を改修 ・広域農道側（東側）を向いた小窓を設置し、窓からソフトクリーム等を販売できるよう整備 ・スイーツ等の開発強化
体験スペース (新規)	【現状・課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・来訪者が主体的に楽しめるような体験コンテンツが、周辺の観光農園のさくらんぼ狩り、ブルーベリー狩り等に限られており、季節的に限定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・屋内休憩スペースの一部を体験スペースと兼ねる形で整備 ・加工所で製造しているスイーツの製作体験、ソフトクリーム作りなど、すでにノウハウのある体験を試験的に実施し、より良い体験コンテンツを通年で提供できるよう検討 ・農に関して学べる体験の充実化
緑地広場 (拡張)	【現状・課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・遊具やベンチを設置した緑地広場は、親子連れに人気で平日・休日問わず利用者が多い ・子ども向けに整備したパンプトラックは、利用者数や利用頻度が低調で見直しが必要 ・遊具の増設や、日陰スペース等の休憩機能の充実化を望む声がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・パンプトラックを廃止し、緑地広場を拡張（約400㎡） ・遊具や東屋など、要望の多い機能の整備を検討 ・ペット連れが散歩を楽しめるよう、広い公園空間を確保 ・災害時を想定し、かまどベンチ等の設置を検討
屋内遊戯施設 (新規)	【現状・課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・雨の日、強風、真夏、真冬など、気象条件が悪かったり極端な暑さ、寒さといった気象条件の日はテラス全体の来訪者が少ない ・天候や季節を問わず、子どもが身体を動かして遊べる場所のニーズが高い 	<ul style="list-style-type: none"> ・気象条件の悪い日でも施設を訪れてもらうきっかけとするため、屋内遊戯施設を整備 ・子育て支援センターとの役割分担を考慮して、対象年齢は園児から小学生（4～12歳）とする ・地域の農に関して興味を持ったり理解が深まるような情報発信等の仕掛けの検討
その他	【現状・課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・周辺の農地や、町民菜園・交流菜園との連携が十分できていない ・道の駅にふさわしい既存施設の充実化 	<ul style="list-style-type: none"> ・東側の果樹団地、西側の農地等、周辺の広大な農地との連携や、町民菜園・交流菜園と連動した事業の検討。 ・各施設の道の駅化アクションプランを作成し、充実化に向けた取組を推進

【防災機能】（整備内容・対応は再掲）

導入機能	現状・課題	整備内容・対応
災害情報等の提供 （新規）	【課題】 施設利用者に対し、災害情報等が提供できていない	<ul style="list-style-type: none"> ・道路情報を提供するデジタルサイネージを設置し、情報案内スペースに設置。これを利用して災害時の情報提供も想定。
駐車場 （拡張）	【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・大型バス等、大型車用の区画が少ない ・駐車場の入口が広域農道側（東側）にしかないため、農道が混雑しやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ・南側駐車場の拡張（約 2,100 m²） 普通車約 75 台分 ・大型車区画の整備と動線の確保 ・町道 52 号線（南側）からの進入路の確保 ・災害時の利用も想定したレイアウトの検討
トイレ （改修、24 時間化）	【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・夜間に使えるトイレがない ・災害時を想定したトイレの整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・サイクルテラスのトイレを 24 時間開放し、屋内休憩スペースから利用できるトイレに改修 ・多機能トイレの新規整備 ・災害時の利用を想定し、レジリエンストイレの導入を検討
緑地広場 （拡張）	【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・災害時を想定した機能の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・パンプトラックを廃止し、緑地広場を拡張（約 400 m²） ・災害時を想定し、かまどベンチ等の設置を検討

③各施設、スペースのイメージ



情報案内スペースの例
【道の駅 潮見坂（静岡県湖西市）】



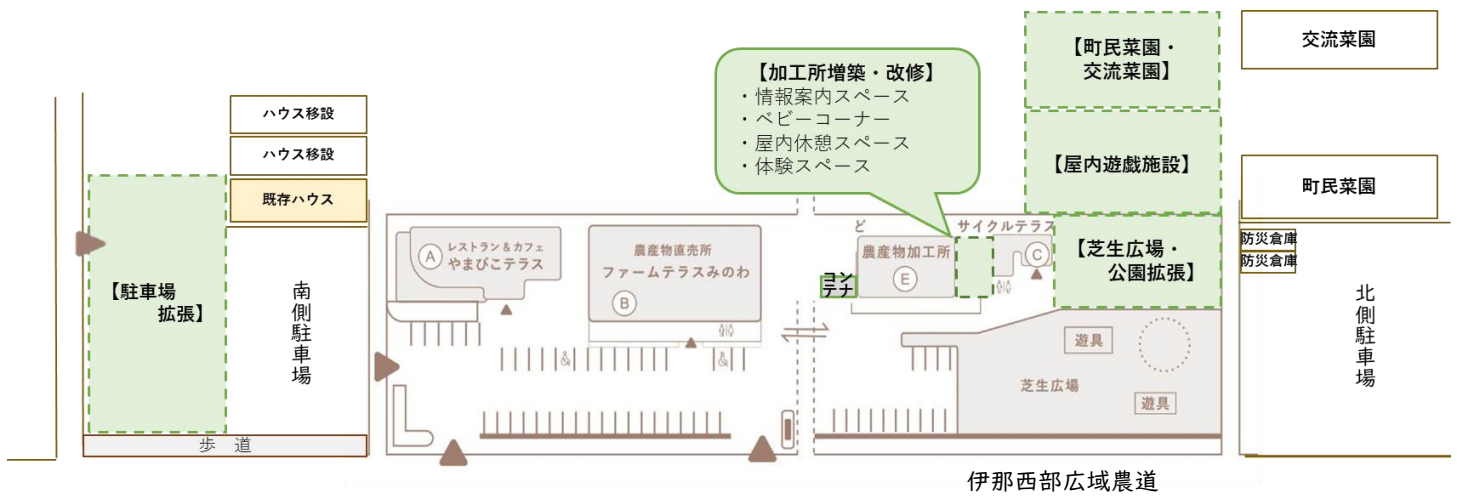
ベビーコーナーの例
【道の駅 たちばな（福岡県八女市）】



屋内休憩スペースの例
【道の駅つの（宮崎県都農町）】



屋内遊戯施設の例
【おおの天空パーク（福井県大野市）】



【施設整備イメージ】

(3) 概算事業費

前項の施設機能整備と整備概要に基づき、概算事業費を算定すると約4億円の事業費が見込まれます。

項 目		概算事業費 (千円)
調査設計費	建築設計、施工管理	34,364
工事費	建築工事（農産物加工所増築、屋内遊戯施設）	302,390
	緑地広場拡張工事等	8,580
	駐車場拡張工事等	19,459
	その他の整備	3,750
備品購入費	備品（机、いす、棚）等の購入等	13,000
その他	デザイン監修、HP改修 等	2,520
合 計		384,063

(4) 補助制度の活用

整備財源の一部に次に掲げる補助制度等を活用し、一般財源の負担を抑えます。

名 称	メニュー	補助率	想定する充当事業内容
新しい地方創生・生活環境創生交付金 (地域未来交付金)	第2世代 交付金	50%	・設計、施工管理業務 ・施設整備全般 ※備品購入は交付対象事業費の2割 まで対象

6 課題に対する取組と目標

本計画の効果として、この地域の資源であり魅力である農畜産物を中心とした商品販売、食事や体験の提供と、それらによって得られる収益が生産者や加工業者、地域雇用（従業者）に還流し、農業生産活動の維持や発展につながる、といった効果が挙げられます。また、周辺の生産者や施設管理者と連携・協働することにより、この地域の安定的な賑わいを創出し、関係人口の増加に寄与することが期待されます。

(1) 課題に対する取組

前述の「目標達成に向けた課題」(P.7) の解決に向け、下記のように取組を進めます。

課 題	取 組
①関係人口の確保・観光消費額の上昇	<ul style="list-style-type: none"> ・情報案内スペース及び屋内休憩スペースの整備による観光、産業のPRと地域内の周遊促進 ・体験スペースの整備、体験型コンテンツの充実化、交流菜園事業との連携による、観光客から関係人口への展開
②農の担い手の確保・遊休農地対策	<ul style="list-style-type: none"> ・情報案内スペース及び屋内休憩スペースを活用した、農業を含む地域の産業PRによる理解促進 ・体験スペース及び屋内遊戯施設を活用した、地域の農に興味を持ち、理解が深まるような情報発信と体験型コンテンツの充実化 ・周辺農地との連携や、町民菜園、交流菜園と連動した事業の検討
③子育て環境の整備・人口減少対策	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代のニーズをとらえた、屋内遊戯施設の整備及び緑地広場の拡張による、遊び場機能の充実化 ・体験スペースの整備及び体験型コンテンツの充実化
④冬季間の来訪者者確保	<ul style="list-style-type: none"> ・屋内遊戯施設の整備による、冬季でも施設を訪れてもらうためのきっかけづくり ・体験スペースの整備及び体験型コンテンツの充実化による、年間を通じた魅力的なサービスの提供
⑤災害時における拠点施設の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時における情報提供を想定したデジタルサイネージの整備 ・駐車場の拡張による駐車可能台数の増加と、災害時の利用も想定した大型車区画のレイアウト作り ・災害時の利用も想定した、24時間利用可能なトイレ、屋内休憩スペース、ベビーコーナー、屋内遊戯施設、緑地広場の整備

(2) 目標値

令和3年のリニューアルオープンにより、リニューアル前と比較して一帯の客数は約2倍、売上は約2.8倍と大幅に増加しており、リニューアルの目的であった「地元農産物の大きな出口」や「にぎわいの場」として一定の成果を上げてきました。

今後、道の駅化による多様なニーズに供用するためのランドマークとしての集客効果により、みのわテラス全体の客数及び売上の増加を見込むことができるほか、地域の農畜産物の消費額を計るための産地直売品の売上額や関係人口など、数値化できる目標についてはKPI（重要業績評価指数）を次のとおり定め、この目標達成に向けて、道の駅の魅力を高める様々な取組みを町と指定管理者が連携して計画・実践し、その成果を評価して運営内容の改善、新たな戦略の策定につなげていくものとします。

項目	H30	R3	R6	R8 目標	R10 目標	R12 目標
①みのわテラス全体の客数（人）※1	57,469	112,338	151,076	166,000	201,000	243,000
②みのわテラス全体の売上（千円）	83,909	239,416	278,920	294,000	326,000	359,000
③産地直売品の売上（千円）	—	42,020	60,000	66,000	78,000	90,000
④関係人口（人）※2	—	—	—	350	1,000	1,600

※1 全施設のレジ通過者数の合計

※2 移住イベント参加者、ふるさと住民制度登録者数 等（R7～集計方法を変更）

(3) 「目標達成に向けた課題」(P.7) と目標値との関連




















「目標達成に向けた課題」と、上記の目標値（KPI）は下記のように関連しています。

- ①関係人口の確保・観光消費額の上昇 目標①、目標②、目標④
- ②農の担い手の確保・遊休農地対策 目標③
- ③子育て環境の整備・人口減少対策 目標④
- ④冬季間の来訪者確保 目標①、目標②

なお、「⑤災害時における拠点施設の確保」については、広い敷地や複合施設としての強みを活かした、災害時における役割の強化について検討を進めます。

7 スケジュール

現時点で想定されるスケジュールは次のとおりです。

	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
道の駅 登録申請	 資料作成・調整	 仮申請・申請・登録	 共用開始	
農産物加工所 増築工事	 基本設計、実施設計	 工事	 本格稼働	
関連整備	 計画検討		 工事	 共用開始
遊び場機能 整備工事	 基本設計	 実施設計	 工事	 共用開始
駐車場 拡張工事	 地権者調整・手続き	 設計	 工事	 共用開始
道の駅の 運営方法等 検討	 検討・調整		 共用開始	